

# 名古屋市公会堂 ウォールペインティング・プロジェクト

## 事業レポート

名古屋市公会堂では、市民の皆さまが公会堂の歴史に対する理解を深め、改修工事終了後の再開館に向けて関心を高めていただくことを目的に、工事現場の仮囲いフェンスに絵を描く事業、『ウォールペインティング・プロジェクト』の準備を進めてきました。

そして3月下旬に、完成したイラストを印刷したシートを、フェンスに貼り付けました。

施工当日の様子を、貼り付けの作業風景からご紹介します。



最初の1枚を貼る前に、慎重に位置を決めています。  
この日はちょうど桜が満開で、午前中にもかかわらず、鶴舞公園は多くの花見客で賑わっていました。



2枚目からはスピードが上がってきました。  
1枚の絵の大きさは横が1 m50cm、縦が1 m30cm  
です。  
絵の下には解説文も貼っていきます。

順調に施工が進み、間もなく完了です。  
後ろに見えるプレハブが、公会堂の改修工事の現場事務所です。



遂に完成しました。  
写真は左から見たところです。

右から見たところです。



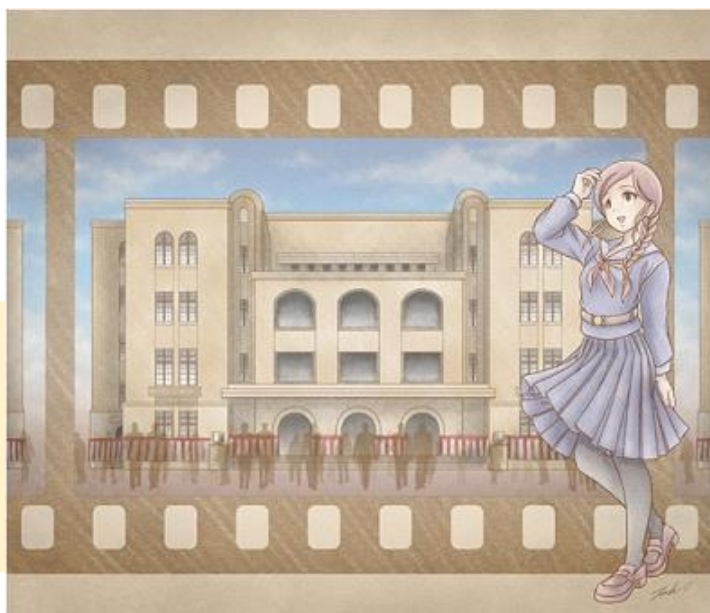
以下に、イラストの原画と解説文をご紹介します。（一部、実際の施工作品とは異なります。）  
作画はイラストレーターの大笹知子さんです。

## 名古屋市公会堂 歴史アルバム

現在、改修工事中の名古屋市公会堂は、  
戦前に建てられた貴重な文化遺産です。  
写真をもとにしたイラストで、  
昭和初期からの歴史を振り返ります。

### 1 開館

名古屋市公会堂は昭和天皇のご成婚記念として多くの市民  
や企業の寄付金を基に建設され、昭和5（1930）年に開  
館しました。その威容に当時の人々は目を見張り、「東洋  
一の文化と社交の殿堂」と讃えました。



### 2 大集会室

現在の大ホールは開館当時、国内有数の規模でした。客  
席数2,700、収容人員3,000名で、通路まで人が溢れた催  
しでは最高6,000人も入った記録があります。演説会や  
各種大会のほか、コンサート、オペラ、演劇、舞踊など  
の公演が盛んに行われました。



### 3 廣間

当時は廣間と呼ばれていたロビーは、天井の装飾、壁の  
日華石、床のモザイクタイルなどが重厚な雰囲気を出し、  
訪れる人々を迎え入れていました。男性客はまず  
地下に降りて、下足番に下駄を預けたそうです。





#### 4 大食堂

現在の4階ホールは1,300名収容の大きなパーティ会場として作られました。それ以外に「中食堂」や「小食堂」もありました。

地下の厨房で作られた料理を、専用のリフト3基で4階の配膳室まで上げていました。



#### 5 娯楽室

4階にはビリヤード台を備えた「娯楽室」が設けられていました。このほか、各階には「談話室」もあり、公会堂は市民が気軽に集える社交の場として親しまれていました。また、日本間では結婚式が盛んに行われていたそうです。

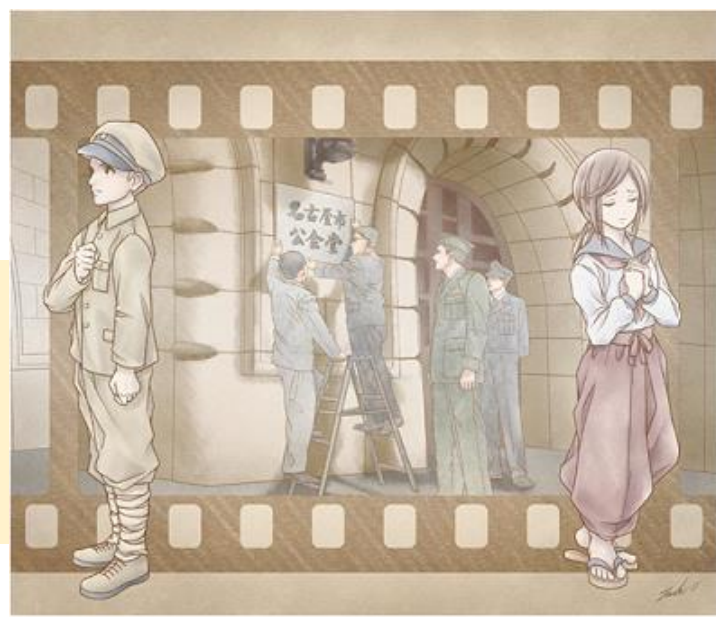


#### 6 夜の賑わい

当時は夜11時まで開館しており、連日連夜遅くまで催しが開かれ、多くの来館者で賑わいました。昭和7年の鶴舞公園祭では、提灯を装飾して“イルミネーション”を行い、公園を訪れた人々の目を楽しませました。

#### 7 戦中～戦後

戦時中は公会堂に陸軍高射砲部隊の司令部が置かれました。空襲の被害は免れましたが、戦後はアメリカ空軍の厚生施設として接收されました。市民の返還運動も高まり、10年余り後ようやく返還されました。





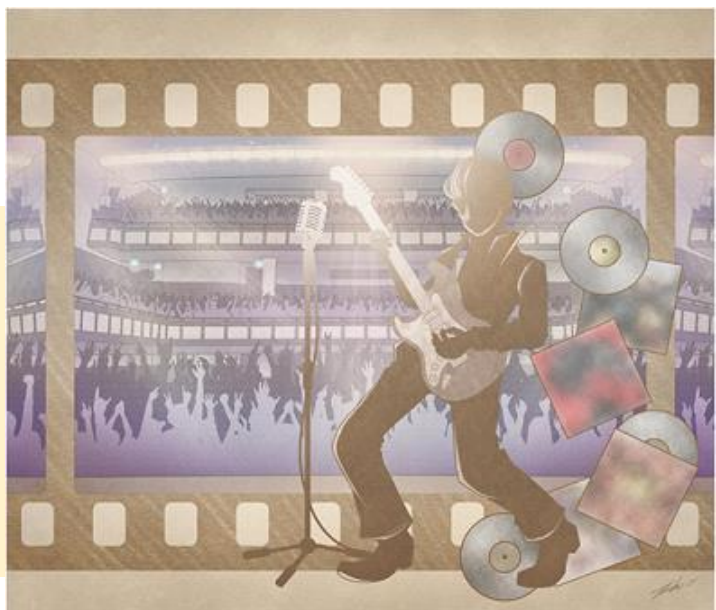
## 8 昭和30年代～

この時期から海外オーケストラが続々と初来日しています。ウィーン、ベルリン、レニングラード、ボストン、ニューヨーク、アムステルダム・コンセルトヘボウ、スイス・ロマンなど世界の名だたるオーケストラが公会堂で演奏しました。

## 9 昭和40年代～

海外ロックアーティストが次々と公会堂の舞台を飾りました。

レッド・ツェッペリン、ディープ・パープル、サントナ、イーグルス、シカゴ、KISS、デヴィッド・ボウイ、エリック・クラプトン、ジェフ・ベック、ボン・ジョヴィ、ボブ・ディランなど枚挙にいとまがありません。



## 10 現在

戦前からの長い歴史を持つ公会堂は、現在も多くの人に利用されています。大ホールでは講演会、研修会、式典、学校の文化祭やライブなど様々な催しが開かれています。週末には4階ホールを中心にコスプレのイベントが盛んになっています。